

まほろば Vol. 9 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



第83佐賀明神丸
ぎようちょう 漁労長 明神 学武さん

昨年11月に無事帰港し、前年比約7千万円プラスの漁獲高で全国近海鯉一本釣り漁船で2年連続1位に輝いた同船を率いる明神さん。今年の漁を振り返ると同時に、高校を卒業して以来、約30年間この仕事に携わり、カツオの一本釣りと向き合ってきた明神さんの思いを聞きました。

昨年1年間の漁を振り返った印象は？

昨年2月に出港し、11月に無事帰港しました。漁の始めはマリアナ海峡から始まり、その後伊豆諸島近海から段々と三陸沖へ北上しながら、魚の先頭を追いかけ船を進めていきます。

昨年は、漁場や魚体にムラがあった1年でした。カツオがいたはずの所に次の日はいなかったり、魚の大きさも大きいもので7〜8kg、小さいものは1〜1.5kgなど、ばらつきがありました。また、コロナの影響で魚を釣っても売れる量が半分近くになったりと、ダメージもありました。



沖でカツオを探す明神さん

仕事を始めたきっかけからこれまでの経過を教えてください。

父がカツオの一本釣りをしていた関係で、保育園の頃から海や船、カツオ漁が身近にありました。小さい頃の遊び場は船の上だった。漁師のおんちゃんたちの背中を昔から見ていたし、「かっこいいな」と憧れがありました。

船に乗ると決めたのは、高校3年生に上がる前、ちょうど進路を考えるタイミングでした。卒業後、船に乗り出してからは、寄港する度にサーフィンやスケートボードなどを楽しんだりもしていました。

自分にとっての転換期は、30歳手前の頃。代理で漁労長をさせてもらった時に1週間かけてもほとんど魚が獲れないという経験をしました。あの経験があったから、漁に対する向き合い方が変わったと思います。漁

に臨む前の「準備」や「気持ち」「情報」の整え方にも力を入れるようになりました。「あの時釣れなくて良かった」、そう思います。

明神さんがこの仕事で一番大事にしていることは？

やっぱり「仕事にどれだけ真剣に向き合うか」ということだと思います。その人の「向き合った密度」で結果が変わってくるんじゃないかと思うんです。

この仕事に就いた頃は、「一生続けていく」とは決めていなかったけど、やっていくほどにはまっていたし、この仕事が好きです。好きでやっていたら、自然に手を抜けなくなるんですよね。カツオ船に乗り出してから何十年も経ちましたが、今でも向き合えば向き合うほどに新しい発見がたくさんあります。



夏場の水揚げ

帰港してからの過ごし方、また、今後の予定や目標を教えてください。

帰港してからは、身体の調整や回復のために接骨院に通ったり、犬の散歩などをして過ごしています。年明けには毎年、次の航海に向け安全と大漁を祈願しにお参りに行きます。船によって違うと思いますが、少しでも不安がないよう、私は何力所かお参りに行っています。そうすることで出航に向けた気持ちを整えられるような気がします。

今年の漁は2月2日に出港を予定しています。怪我や事故がなくこれからのシーズンを乗り切って、自分なりに納得のいく結果を出せるようまた頑張ります。



カツオを手に笑顔

※写真提供：明神水産(株)

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookで紹介しています。裏表紙のQRコードからご確認ください。

第83明神丸「近海鯉一本釣り」で1位

第83佐賀明神丸が令和2年の漁期において、近海鯉一本釣漁業で水揚げ額日本一位となったことを受け、1月18日(月)、町の水産振興に貢献したとして町から表彰状が送られました。

同船は昨年2月に出港し11月に帰港するまでの期間において、前年比プラス7千万円の漁獲高を誇り、9回目の全国一位となりました。

昨年の漁期を振り返り、同船の明神漁労長は、「昨シーズンは魚の大きさにムラがあったり、値が下がることもあったが、こうして昨年に続き町に表彰してもらえるのはとてもありがたい。今シーズンも頑張っていきたいと思う」と話しました。



明神漁労長(右)と松本町長(左)

同船は2月2日(火)に佐賀港を出港し、今シーズンのスタートを切る予定です。